



# 小網代通信

2021年 9月号 VOL-279

発行：小網代ヨットクラブ  
〒238-0225  
神奈川県三浦市三崎町小網代 1385-18  
編集：広報委員会  
編集長：里吉美恵子  
連絡先：[office@koaziroyc.jp](mailto:office@koaziroyc.jp)

## 今月の内容

・連絡事項	編集委員	1ページ
・「オリンピック(セーリング)雑感」	児玉 萬平 (テティス4)	2～3ページ

### 連絡事項 (編集委員)

#### 1. < KYC 9月イベント ランデブーレース・9月KFR 中止 >

9月12日までの緊急事態宣言は、9月30日まで延長が決定されました。  
13日間の東京パラリンピックが9月5日に閉会しましたが、コロナ禍は変わらず厳しい状況が続き、宣言下での下記KYCイベントは中止といたしました。

- ・9月5日(日) ランデブーレース(熱海予定)
- ・9月19日(日) KFR(#559)

#### 2. < KYC 専用栈橋が新しくなりました >

8月21日(土)に新たな栈橋の運用が始まりました。設置にあたって、みうら漁業協同組合とKYC 栈橋プロジェクトメンバー中心に設置の検討作業を進め、KYC 会員には設置までの期間を代替え運用としてコンクリート栈橋からのテンドー利用をさせご不便をおかけしました。新栈橋のご利用に関してはKYC ホームページに「テンドー用新栈橋設置のご案内」を掲載しております。

[http://koaziroyc.jp/news/KYC\\_NewPontoon2021.pdf](http://koaziroyc.jp/news/KYC_NewPontoon2021.pdf) ぜひご覧ください。これまで、3年をかけ新栈橋の設置にご努力されました方々、そしてKYC 会員全員のご協力のもと無事に進められましたこと本当に感謝いたします、ありがとうございました。



設置日は、大潮に近い時期でしたので、1日かけて干満差によるスロープの角度を計測。また、乗降時での感触などをチェックされていました。



【小網代ヨットクラブウェブサイト情報】 URL <http://koaziroyc.jp>

【次回予定 総務委員会 9月21日(火) 20:00～ web 会議開催予定】

2021. 9月号-1

## オリンピック(セーリング)雑感

テティス4 児玉萬平

江ノ島におけるオリンピックのセーリング競技は所定の競技日程を無事終えることが出来た。今回 NTO (技術委員)の一人として参加した私の役割は、競技を支えるオメガ社の情報システムのサポートエンジニア専属のボートドライバーとしてであった。ここではその業務を通じて感じたことをレポートしたい。

オリンピックレガッタでは海上に出るすべての艇、250 のレース艇はもちろん、本部船、各運営艇、ジュリーボート、コーチボート、カメラボートなど約 700 に及ぶ艇に GPS トラッカーが、また各レース海域の主要な艇には風向風速センサーの端末が搭載され、各端末からの情報がリアルタイムで収集され、レース海域が俯瞰できる管制塔の様なレガッタオフィス 2F のコントロールルームに集約される。それらの情報はレガッタの運営に使用することは無論の事、OBS (オリンピック放送チーム)のカメラボート、ヘリコプターやドローンの映像とマージ(オーバーレイ)され、放送やインターネットライブ配信、そしてジュリー判定にも利用される。そのためシステムサポート担当者はレガッタ中に発生する様々なレベルのシステムトラブルに対応する必要がある。

我々、サポートボートドライバーは持たされたトランシーバーから聞こえるエンジニア同士の交信を傍受し、出動を予測し待機する。出動要請に即応し担当のエンジニアをレガッタエリアに運び、リカバリーが済むまで待機する。レースの合間にしか機器交換やシステムをリポートできない場面があるので、その際は本部船やマークボート近くでレースの観戦ができる役得もあった。おかげで今回のオメガチームのサポートを通じて今後のレガッタの方向を垣間見るチャンスとなった。



コーチボート用 GPS トラッカー貸出デスク、  
ここだけで 233 艇分ある



レースを間近に見られる役得



OBS カメラボート、左右のフロートと  
操縦席は分解しコンテナで世界中に運ばれる

### e スポーツ化するセーリング？

OBS のカメラボートは最前線(レイラインぎりぎり)に出て撮影し、同時にドローン撮影専用ボートがパイロットを乗せて各回航点に待機、レース艇のほんの数艇身の上空から撮影していた。



ヘリコプターからの撮影でもレース艇の GPS 端末を特定して、カメラが自動でその位置を追尾する技術が使われていた。実際、それらの映像はインターネットのライブ映像サイトでリアルタイムの視聴をすることができたが、その迫力と視点、そして鮮明さには驚きだった。我々スタッフも海面にいない時はライブ配信を視聴していたが、正直言って海面でのレース観戦より分かり易く、迫力があり臨場感もはるかに上だった。



データがオーバーレイされたライブ映像

アメリカズカップの映像と同様にレース中の各艇のボートスピード、風の振れによる順位の変化などは運営艇の風向風速センサーのデータを上空からの俯瞰映像にオーバーレイさせて表示している、現場にいなながらも観客としての我々はその映像を見て実際のレース展開を知るのだった。セーリングは観客のいないスポーツだと言われるが、今回使用されている映像や情報技術を駆使することで誰にでも分かりやくその魅力を伝えることが出来ればセーリングファンの層も厚くなると考えるが、インターネットに噛り付いての観戦ではeセーリングと変わりが無いとも言えるかもしれない。

## バブルの内外

コロナ感染対策は徹底され、選手や外国人競技委員と直接接触する可能性のある NTO はプレイブックに従ってバブルの中の生活を余儀なくされた。つまり宿泊ホテルからの原則外出禁止、会場とホテルの間は専用バスへの乗車、毎日の PCR 検査が義務付けられた。とは言っても選手村のない江ノ島では選手、関係者ともに指定ホテルに分散宿泊となり、選手以外はホテルでの夕食も提供されないことから、否応なしにコンビニやデリバリーを利用しホテル自室での個食でしのぐことになった。

一方、ボランティアスタッフや専門業務担当の業者さんはバブルの外(そと)として江ノ島の会場に毎日通うことが出来、食事場所も制限なく比較的自由だった。

実際には各国選手の艇の上げ下ろしをサポートするビーチ担当のボランティアスタッフは(バブル外でありながら)仕事柄、各国の選手と直接の接触が必須なことから、どこまでバブルの実効性があるのか、大いに疑問のあるところだった。



毎日提出が義務の PCR

本大会では日本選手は全ての種目でメダルに届かず、現場にいた我々は忸怩たる思いが募った。結果としてヨーロッパ勢を中心とするセーリング先進国の底力を見せられた形だった。特に英国は4年にわたって葉山に宿舎を借り、江ノ島の海面で練習を重ねた結果として、金を含む5つのメダルを獲得した。特筆すべきは中国がRSXの金を含め2つのメダルを獲得したことだ。コロナ禍とは言えホームグラウンドである日本選手の強化策に問題があったことは疑問の余地がない。本大会が終了した今、3年後のパリ(マルセイユ)に向けその問題点の克服に向けた動きが一部静かに始まっていることに期待したい。



帰着した日本チーム(岡田・外園)艇